

奈良市における児童・生徒の 「心の健康」に関する 相談及び診断事業

奈良市医師会学校医部会

北村栄一 矢追公一 北山勘解由

西尾 功 門野文彦

奈良市教育総合センター 非常勤講師

木南千枝

奈良市教育委員会

杉本宣弘 奥野 愛

はじめに

- 児童・生徒の精神・行動上の問題の増加
- 「一体どうすればよいのか？」
教育現場からの深刻な問いかけ
- 学校医として何ができるか？
- 平成4年度 奈良市医師会学校医部会
「児童・生徒の心の問題委員会」
- 平成10年度 奈良市教育委員会
「児童・生徒の心の健康に関する
相談および診断事業」の実施

事業の目的

- 学校長の要請により、精神科医師、臨床心理士が同席して相談・診断を行う。
- 教職員を対象に学校における児童・生徒の心の健康問題について指導・助言する。
- 対象児童・生徒および保護者、教職員への積極的支援の実施

事業の対象者

- 奈良市立の小学校・中学校
に在籍する

児童・生徒

保護者

教職員

実施の方法

- 申請書作成・・・相談内容の概略記入



- 学校長~教育委員会への申請(随時)



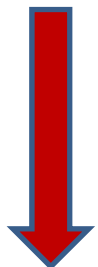
- 相談日時決定・・・市教委、精神科医師、臨床心理士との協議



- 学校長への通知



- 相 談



相談日・・・原則毎月一回 木曜日午後

場 所・・・奈良市医師会館

時 間・・・1事例につき平均60分

- 市教委への報告

相談・診断実施日数

平成10年10月~平成23年3月末

年度	日数	年度	日数	年度	日数
10	5	15	9	20	11
11	6	16	11	21	12
12	12	17	12	22	12
13	11	18	11	23	11
14	12	19	11	合計	146

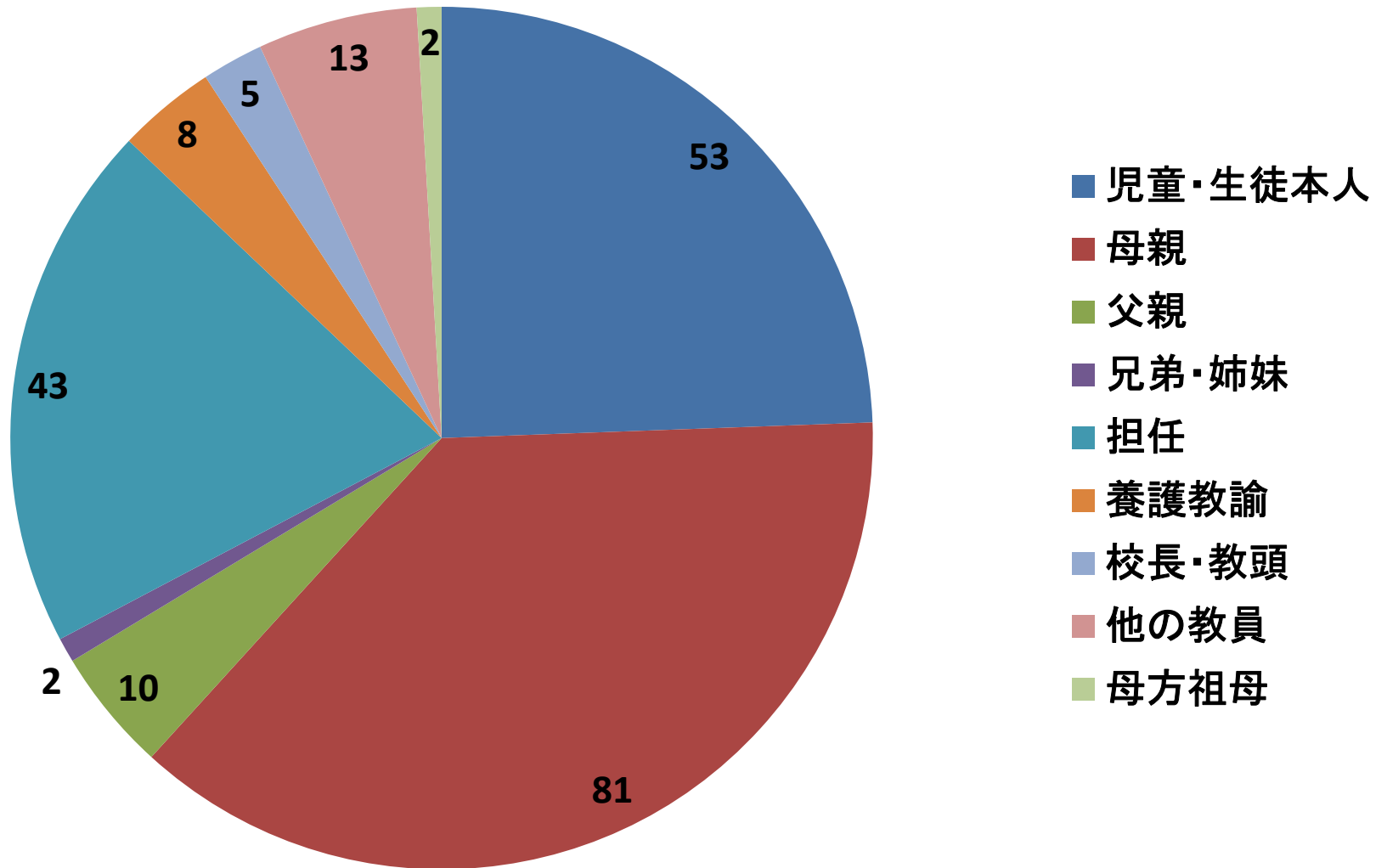
来所者別実人数・延べ人数

来所者	実人数(人)	延べ人数(人)
児童・生徒本人	53	165
母親	81	261
父親	10	19
兄弟・姉妹	2	11
母方祖母	2	5
担任	43	100
養護教諭	8	28
校長・教頭	5	7
他の教諭	13	22

総来所者数 217人

延総来所者数 618人

来所者別実人数



結果

学年別、男女別 相談人数

小学校の児童

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6
男	7	5	3	9	10	4
女	3	5	3	4	6	5

男子 38人

女子 26人

合計 64人

中学校の生徒

学年	中1	中2	中3
男	2	4	3
女	8	11	5

男子 9人

女子 24人

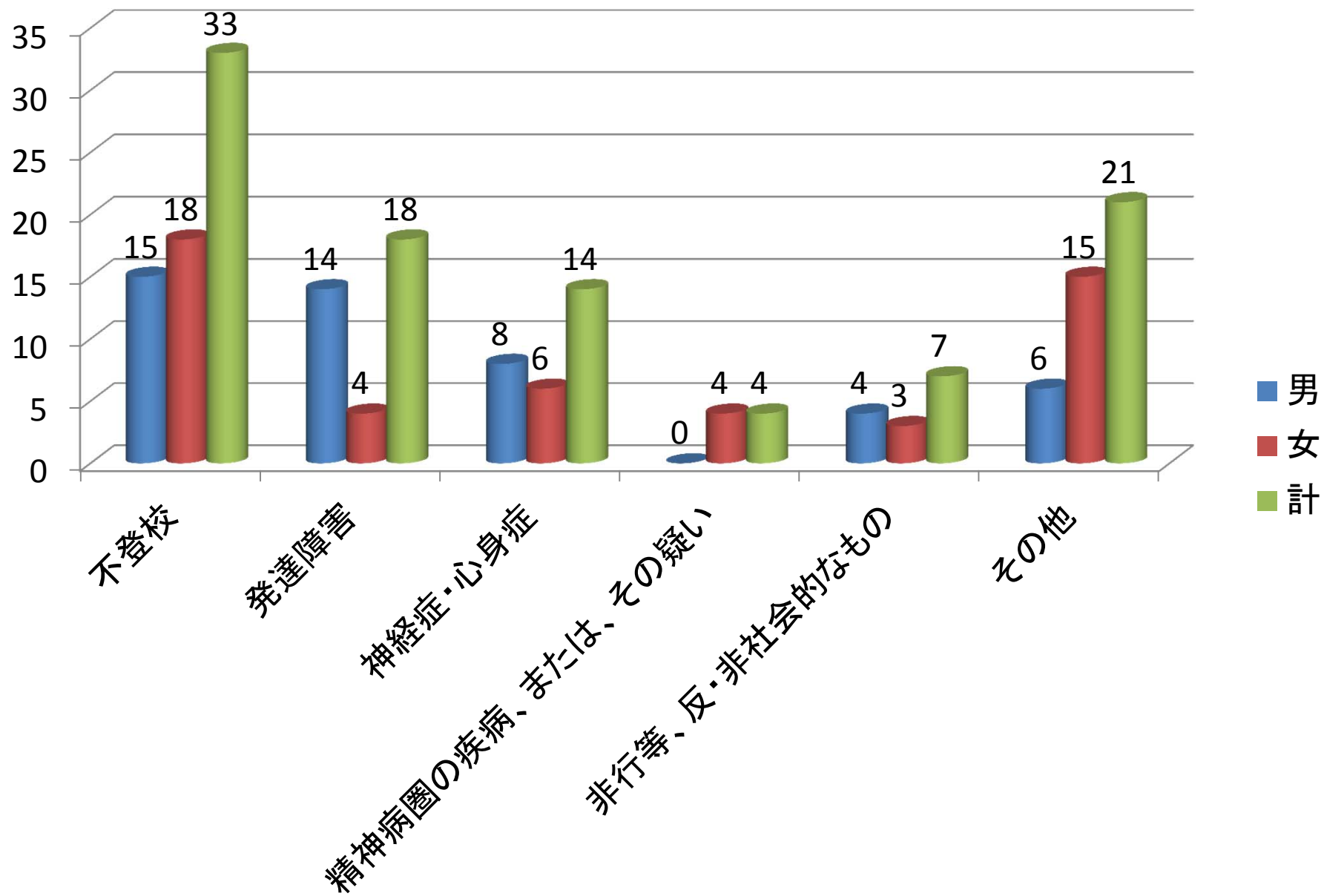
合計 33人

疾患、または障害別 人数

* 児童・生徒自身が1度も来所されていない事例もあり、あくまでも暫定診断である事を前提としたものである。また、「その他」の中には「正常で精神・行動上問題がない」事例が含まれる事を踏まえての分類と考えていただきたい。

疾病、または障害	男	女	合計
不登校	15	18	33
発達障害	14	4	18
神経症・心身症	8	6	14
精神病圏の疾病 または、その疑い	0	4	4
非行等、反・非社会的なもの	4	3	7
その他	6	15	21

疾病、または、障害別人数



各分類のコメント

- **不登校**: 学校生活への不安・葛藤が強く、登校出来なくなっている状態。母親の来所が殆ど。母親の不安を受け止め、不登校の経過に応じた適切なアドバイス。
- **発達障害**: 精神遅滞では軽度、または中度。適正な就学のあり方を検討し修正。ADHD・アスペルガー症候群、高機能自閉症では、支援、援助の方法が十分に確立されていない。学校全体での支援のあり方の工夫。
- **神経症・心身症**: 神経症の基盤にあるのは不安。年齢が低い程、頭痛、吐き気、チック、等の身体への「表現」を取る。
- **精神疾患または、その疑い**: 精神科医療機関への受診が必要。長期的な加療と経過観察。
- **いわゆる問題行動**: 虚言、暴力、不純な異性との交遊、窃盗、シンナー吸引等。母子関係、家族関係が複雑で問題が多い。
- **その他の事例**: 1例ずつ異なる様々な事例を経験した。

まとめ

- 本事業の概略ならびに結果について説明した。
- 精神科医師と臨床心理士が、一緒に相談・診断にあたるのが大きな特徴である。共同で診て行く事により、事例をより深く理解し、より適切に助言し指導できるものと考えている。
- 相談事例は、不登校、発達障害、神経症・心身症の順に多く見られたが実に多彩なケースがあり、1例、1例から教えられる事はさまざまであった。
- 児童・生徒を中心として、関係者を含めて、「理解し、共有し、支持し、指示」する事を行ってきた。